



オリパラ基本方針推進調査

(インフルエンサー等を活用した国内外への情報発信及び
ホストタウン等による連携・情報共有に関わる調査)

成 果 報 告 書

東武トップツアーズ株式会社

第1章 調査の概要

| | |
|-------------|---|
| 1. 調査の背景・目的 | 2 |
| 2. 実施内容 | 3 |

第2章 インフルエンサー等を活用した国内外への情報発信について

☆相手国インフルエンサーのホストタウンへの訪問

| | |
|---------------------|------|
| 1. 訪問概要 | 4-5 |
| 2. SNSの投稿および反響 | 6-8 |
| 3. 交流会アンケート結果に関する報告 | 9-17 |
| 4. 本事業の効果 | 18 |

第3章 ホストタウン（復興ありがとうホストタウン含む）と相手国との交流を継続発展させる

イベント・プロモーションについて

| | |
|--------------------------------------|-------|
| 1. web版ホストタウンサミット | 19 |
| 1-2. 基調講演 | 19 |
| 1-3. ホストタウンの高校生による発表 | 20-21 |
| 1-4. 駐日大使によるメッセージ | 22 |
| 1-5. パワーリフティング応援デモンストレーション | 23 |
| 1-6. 自治体ポスターセッション | 24 |
| 1-7. ホストタウンモデルルーム | 25-26 |
| 1-8. ホストタウン自治体の特産物を活用した相手国・地域コラボメニュー | 27-28 |
| 1-9. 音楽パフォーマンス | 29 |
| 2. アンケート集計 | 30-38 |
| 3. 調査結果に関する分析および報告 | 39-40 |

第1章. 1.調査の背景・目的

【ホストタウンの目的と影響範囲】

2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会（以下「2020年東京大会」という。）の開催により、多くの選手・観客等が来訪する機会を、国全体で最大限に生かし、日本の自治体と、『2020年東京大会』に参加する国・地域の住民等が、スポーツ、文化、経済などの多様な分野において交流し、地域の活性化等に活かすことを目的としており、2020年東京大会以降も末永い交流を実現することを目指している。

【ホストタウンの現状】

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局は、『2020年東京大会』の開催に向けて、スポーツ立国やグローバル化の推進、地域の経済活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として全国各地に広げている。

ホストタウン登録数は2019年10月31日現在、392件、自治体数は464となっている。

一方、相手国・地域数は156で、増加状況を大陸別にみると、どの大陸でも6割を超え、大会に参加する国・地域の4分の3がホストタウンを有していることになっている。

各ホストタウンでは、既に、テストイベントの機会などに各国・地域から続々と選手が訪問し、市民と交流。選手からは、「まるで家に帰ってきたようだ」といったコメントが多く出ており、選手を応援するホストタウンの応援の力が発揮されつつある。

【今回の調査目的】

上記ホストタウンの長期的な相手国（及び地域）との交流を継続していくために、様々なイベントやプロモーション活動を通じて認知度を上げていき、地域活性やさらなる文化的交流を推進していくことが必要である。今回「インフルエンサーの招聘」「ホストタウンサミット（→中止のためweb上で発信）」を実施し、効果検証を行う。

第1章. 2. 実施内容

【実施内容】

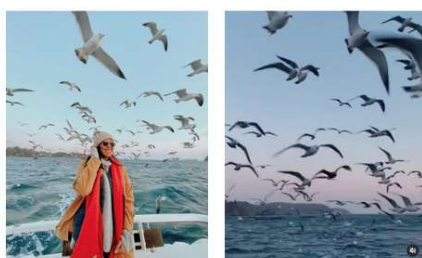
インフルエンサーの招聘

「復興『ありがとう』ホストタウン」である宮城県気仙沼市が、震災からの復興の状況やホストタウン交流の発信を目的として、相手国であるインドネシアからインフルエンサーを招聘した。招聘されたインフルエンサーは、上記の内容のほか、観光地としての魅力等について取材し、SNSにより国内外のユーザーに向けて情報発信を行った。

※当初は同国のオリンピックまたはパラリンピアン招聘も合わせて計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を鑑み、インフルエンサーのみの招聘とした。

Post No.2 (2020/2/24)

| Reach | Reaction | Comment |
|--------|----------|---------|
| 34,956 | 6,714 | 69 |



気仙沼湾で鳥たちとクルージング🐦。気仙沼での楽しいアクティビティのひとつは、気仙沼湾の遊覧船に乗ることです。サンセットも見ることができる夕方に乗るといいでしょう。出発港はcafe RSTからで、eメールや電話で予約できます。後でブログにも詳細を書きますね

#HostTown #Kesennuma #TokyoOlympic2020
#Kadekarini_japan

新型コロナウイルス感染症の拡大防止等のため中止したイベントに代わり、webからの情報発信を実施

ホストタウンと相手国との交流を継続・発展させるために、ホストタウン、将来の交流を担う世代、民間企業、地域住民等の幅広いステークホルダーが連携・情報共有するイベントとして、「ホストタウンサミット」を開催予定であった。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大防止等のため、急遽中止とした。

一部のプログラムに登壇する予定であった皆様から動画撮影等をさせていただき、『web版ホストタウンサミット』としてweb上に展開。

アンケート結果を集計して、2020年東京大会開催時に予定しているイベントに向けて、国内外への情報発信効果を検証した。



第2章. 1.訪問概要

プロジェクト概要

■訪問日程 2020年2月23日～24日

■訪問先 宮城県気仙沼市（インドネシアの復興ありがとうホストタウン）

■訪問者

インフルエンサー：Kadek Arini氏

Instagramのフォロワーは14万人を超える（2020年3月時点）、インドネシアで人気のトラベルブロガー。30代以上の生活意識と知識欲の高い、旅好きのインドネシア人に向けた観光PRに長けている。

視察結果概要

■2月23日（日）

●安波山

気仙沼を一望できる展望台を訪れ、風景を望むとともに、震災前後のまちの様子について説明を受けた。



●亀山

大島内にある亀山の山頂付近から風景を望むとともに、名産である椿について説明を受けた。



●気仙沼大島大橋

2019年4月に開通した大橋にて建設の経緯等について説明を受け、コンテンツを撮影。

●クッキングスタジオ（食の交流会）

気仙沼市民と市内在住のインドネシア人水産加工実習生の「食」を通じた交流会を取材。市民と実習生が協力してインドネシア料理・日本料理を作る様子を撮影するとともに、参加者とコミュニケーション。完成した料理を試食するなどして交流を深めた。



●魚市場内情報展示スペース

クッキングスタジオと同フロアにある情報展示スペースにて、気仙沼の漁業についての情報をインプット。



●インドネシア食堂「Warung Mahal」（視察兼昼食）

2019年7月に開店したインドネシア食堂（コンテナハウス）にてコンテンツ撮影および昼食。同コンテナ群内にある祈祷室も視察した。

第2章. 1.訪問概要

●気仙沼市図書館（ユドヨノ図書館）

インドネシアからの支援によって復旧した図書館を視察し、インドネシアからの支援内容やインドネシア書籍コーナー等について説明を受けた。



●気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館

（旧・気仙沼向洋高校校舎）

実際に被害を受けた遺構（旧・気仙沼向洋高校校舎）を視察しながら、館長から被災当時の状況の説明を受けるとともに、震災当時の様子を伝える映像を視聴し、復興までの歩みについてインプット。



●岩井崎

市内のフォトスポットである海岸を訪れてコンテンツを撮影。



●内湾サンセットクルーズ

気仙沼市を海から眺められるクルーズに乗船。人気の観光アイテムでもあるサンセットやウミネコへの餌やりを中心に撮影を行った。



■2月24日（月）

●気仙沼市総合体育館

東京大会後のホストタウン交流でインドネシア選手を招待する予定の体育館を視察。

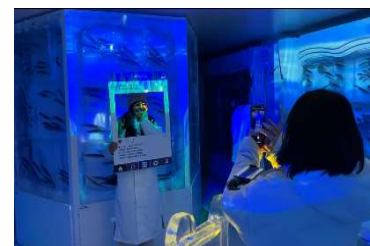
●リアスアーク美術館

東日本大震災の記録を集めた展示や、気仙沼に関わる民俗資料を視察。学芸員から震災の記録・伝承の重要性について説明を受けた。



●氷の水族館、海の市

フォトスポットである氷の水族館にてコンテンツ撮影。また、インドネシアでも人気の生牡蠣の試食の様子を撮影してすぐにInstagramにて発信した。



■その他

23日夜には気仙沼市長との会食もあり、市の魅力発信の方法やインドネシア実習生の活躍の場の在り方等について意見交換を行った。

第2章. 2. SNSの投稿および反響

Instagram

3/13までに7件が投稿された。内容は以下の通り。

Post No.1 (2020/2/23)



| Reach | Reaction | Comment |
|--------|----------|---------|
| 30,796 | 4,925 | 35 |

気仙沼でたこ焼きタイム、フードトラックと服がすごくマッチしてる😄。これから3日間気仙沼で観光するので、一緒に旅行している気分で見てくださいね！
(気仙沼は) 日本にある海沿いの都市で、新鮮な海産物で有名です。2011年の津波による最も深刻な被害を受けた地域のひとつで、市のほぼ全体が流されました。なので、今(気仙沼の)人々は復興をしています。日本の別の都市を探索する機会を持てとても嬉しいです。

#KesennumaJapan #Kesennuma #Kadearini_Japan

Post No.2 (2020/2/24)



| Reach | Reaction | Comment |
|--------|----------|---------|
| 34,956 | 6,714 | 69 |

気仙沼湾で鳥たちとクルージング🐦。気仙沼での楽しいアクティビティのひとつは、気仙沼湾の遊覧船に乗ることです、サンセットも見ることができる夕方に乗るといいでしょう。出発港はcafe RSTからで、eメールや電話で予約できます。後でブログにも詳細を書きますね

#HostTown #Kesennuma #TokyoOlympic2020
#Kadearini_Japan

Post No.3 (2020/2/26)



| Reach | Reaction | Comment |
|--------|----------|---------|
| 27,224 | 3,906 | 36 |

昔はモールでショッピングするのが好きだったけど、今は市場でお買い物する方が楽しいです、www (笑) #LifeAfterMarried。共感する人いる😄

📍 気仙沼ですべきこと
新鮮な海産物を食べる。気仙沼は海辺に位置するので、ここの海産物はフレッシュで本当においしいです！！そのひとつが、こんなに巨大な牡蠣🦪。売場の女性いわく、これほど巨大なサイズは珍しいから、私はラッキーだって！※食べているときの私の表情を見てください。
しかも、これほどの巨大な(牡蠣が) たったの300円または35000ルピアなんですよ

#HostTown #Kesennuma #TokyoOlympic2020
#kadearini_japan

第2章. 2. SNSの投稿および反響

Post No.4 (2020/2/27)



| Reach | Reaction | Comment |
|--------|----------|---------|
| 17,148 | 2,714 | 28 |

髪に手を添えるポーズは、髪が乱れて顔を覆ってしまわないようにするためです。すごい強風のときに（このポーズを）試してみてくださいね、@her_journeysいわく、Aneka Yessという雑誌のポーズみたいだけど。これが分かる人はきっと私と同年代でしょうね 😊

📍 岩井崎海岸

気仙沼市は太平洋に面した港町です。そのため、町の端には美しいビーチが沢山あります。波の音を聞きながら海辺を散歩したくなったら、町から徒歩で近いので便利です。でも本当はここに来るのは春が夏がベストシーズンかもしれませんね、冬は風がとっても冷たいので、風邪を引きそうな顔してるでしょう 😊

#HostTown #Kesennuma #TokyoOlympic2020
#Kadearini_Japan

Post No.5 (2020/2/28)



| Reach | Reaction | Comment |
|--------|----------|---------|
| 22,814 | 3,591 | 40 |

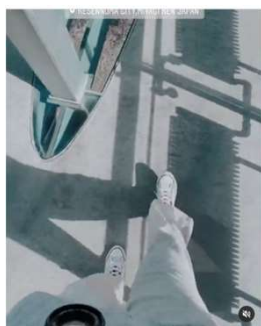
わ〜-20℃の冷蔵庫に入った気分はこんな感じなんだ。子どもの頃、よく冷蔵庫の扉を開けてお母さんに怒られるまで冷凍庫の前でじっとしていたわ。同じことしていた人いる？

📍 氷の水族館（気仙沼市）

気仙沼市には氷の水族館があって、中には凍った海の生き物たちがいます。コンセプトは、まさに冷蔵庫の中みたいに凍った魚、といったところかしら。中はとっても寒くて、10分だけで充分、それ以上は身が持たないわ。水槽の中に入っちゃうなんて一生に一度の経験でしょう、www（笑） 😊

#HostTown #Kesennuma #TokyoOlympic2020

Post No.6 (2020/3/9)



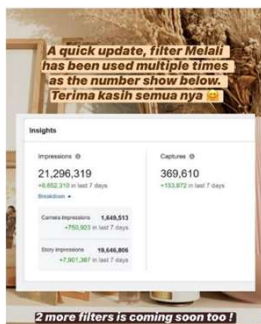
| Reach | Reaction | Comment |
|--------|----------|---------|
| 16,750 | 2,866 | 7 |

秋の季節のこの眺めを想像してみて。辺り一面の枝木が赤や黄色に色づくでしょうね。2011年の（東日本大震災で発生した）津波を経験した気仙沼市は今、美しい海辺の観光ポテンシャルをもとに復興し始めています。

📍 リアス・アーク美術館（気仙沼市）

#HostTown #Kesennuma #TokyoOlympic2020

Post No.7 (2020/3/12)



| Reach | Reaction | Comment |
|--------|----------|---------|
| 25,210 | 3,906 | 53 |

撮った写真の色の組み合わせが素敵だった。まるでVSCOで加工された写真みたいな感じになったかな、ww（笑）。これは気仙沼市のリアス・アーク美術館にある建築物で、可愛いパステルピンク色が私のキッチン用品の色に似ているの、ははは。次の（写真は）こんな感じの色合いを作り出すインスタのストーリー用フィルター（IG story filter）です

フィルター「Melali」を使ってくれた皆さん、ありがとうございます。私の作品（フィルター）を評価してくださって、本当にうれしいです。ありがとう、ありがとう 🙏🙏🙏

#Kesennuma #HostTown #Olympic2020

第2章. 2. SNSの投稿および反響

Instagram投稿の反応

- 7回の投稿でアクセス数は約17万5000回
action（≡いいね）は2万8000回以上

→投稿を意図的（自発的）に「見に来ている」というバイアスを考慮すれば、訴求効果は高く、グローバルな情報発信という意図にマッチしている。

| | 2/23 | 2/24 | 2/26 | 2/27 | 2/28 | 3/9 | 3/12 | TOTAL |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| Reach | 30,796 | 34,956 | 27,224 | 17,148 | 22,814 | 16,750 | 25,210 | 174,898 |
| Reaction | 4,925 | 6,714 | 3,906 | 2,714 | 3,591 | 2,866 | 3,906 | 28,622 |
| Comment | 35 | 69 | 36 | 28 | 40 | 7 | 53 | 268 |

ブログ

Instagramでは伝えきれない交流の様子や震災による被害の様子なども含め、2日間の行程全体をなぞる形での訪問記録が、3/13にブログに掲載された。

【記事抜粋】

Cooking with Indonesia Trainee



Gak nyangka ada 230 pekerja trainee yang tinggal di Kesennuma. Mereka bekerja dalam trainee program yang dibuka oleh perusahaan Jepang yang berbasis di Kesennuma. Durasi trainee program ini 3 tahun, setelah 3 tahun baru boleh memilih lanjut bekerja atau pulang. Perusahaan Jepang mostly yang produksi makanan laut Karena Kesennuma merupakan kota

Ruins Memorial Museum



第2章. 3.交流会アンケート結果に関する報告

参加した地域住民（日本人・日本在住インドネシア人）に対し、アンケートを実施、結果は以下参照

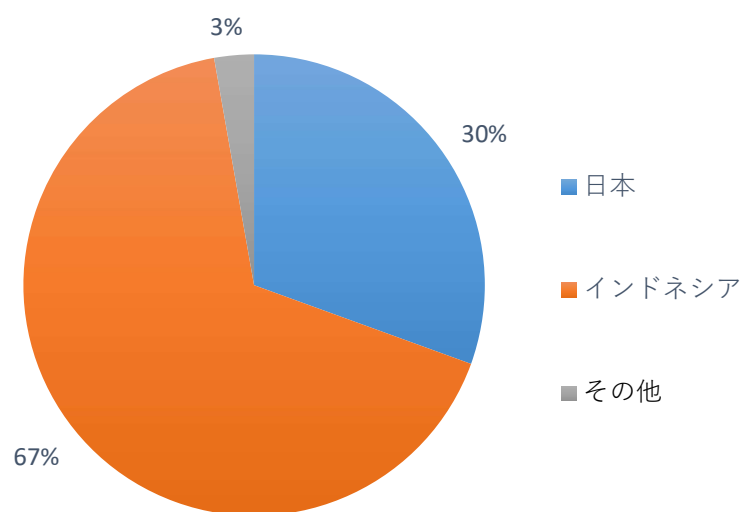
■参加者の属性

気仙沼市在住のインドネシア国籍の方々に多く参加していただいたため、参加者の3分の2はインドネシア国籍の若年層（10代～20代）の方々だった。

参加者の中で、気仙沼市がインドネシアの復興ありがとうホストタウンであることを認知していた方は全体の半分弱で、半分以上の方々は認知していないに関わらず参加していただいた。

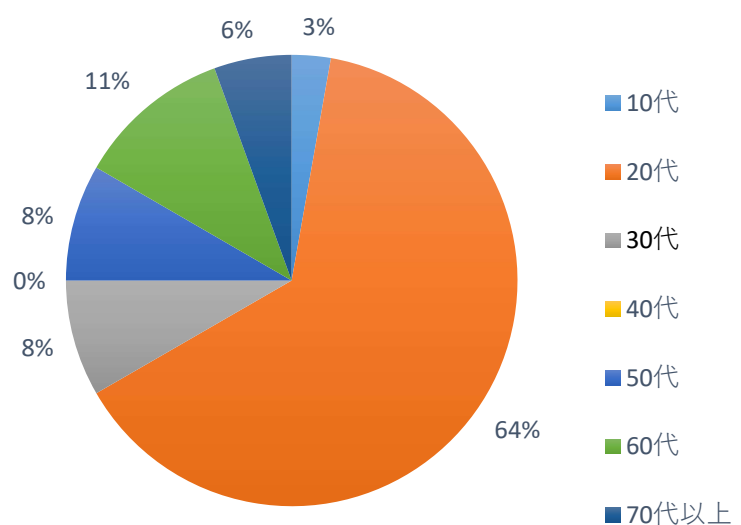
回答者国籍

| 国籍 | 件数 |
|--------|----|
| 日本 | 11 |
| インドネシア | 24 |
| その他 | 1 |
| 合計 | 36 |



回答者年齢

| 年代 | 件数 |
|-------|----|
| 10代 | 1 |
| 20代 | 23 |
| 30代 | 3 |
| 40代 | 0 |
| 50代 | 3 |
| 60代 | 4 |
| 70代以上 | 2 |
| 合計 | 36 |



※10代、20代は全てインドネシア国籍

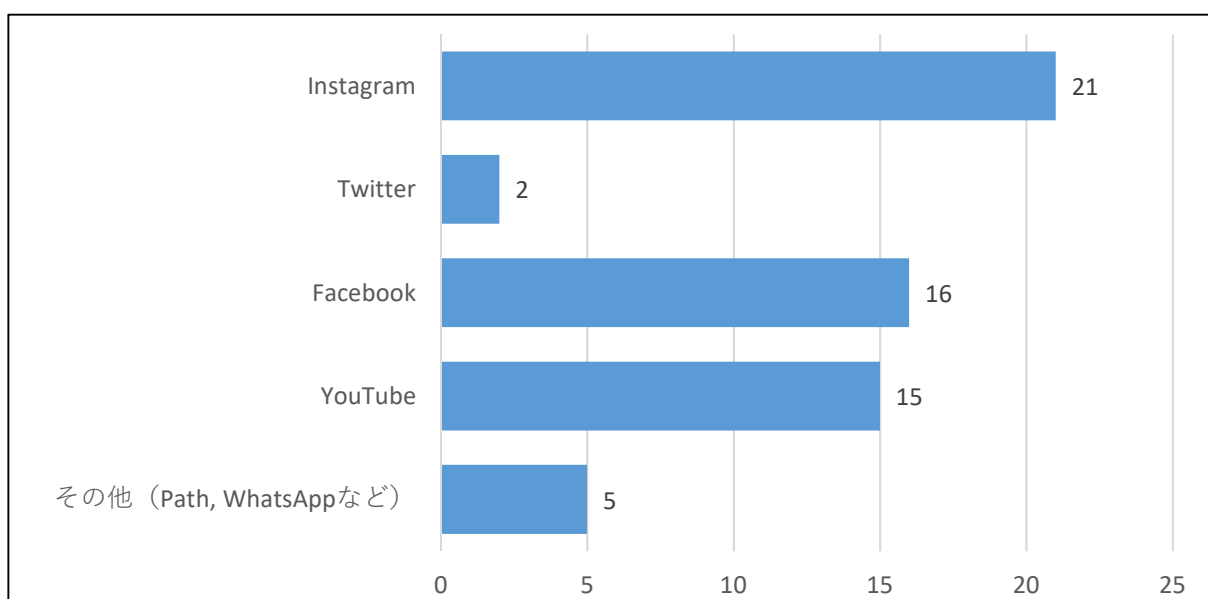
第2章. 3.交流会アンケート結果に関する報告

インフルエンサーによるホストタウンの紹介について

普段見ているSNSはInstagram、Facebook、Youtubeが多かった。

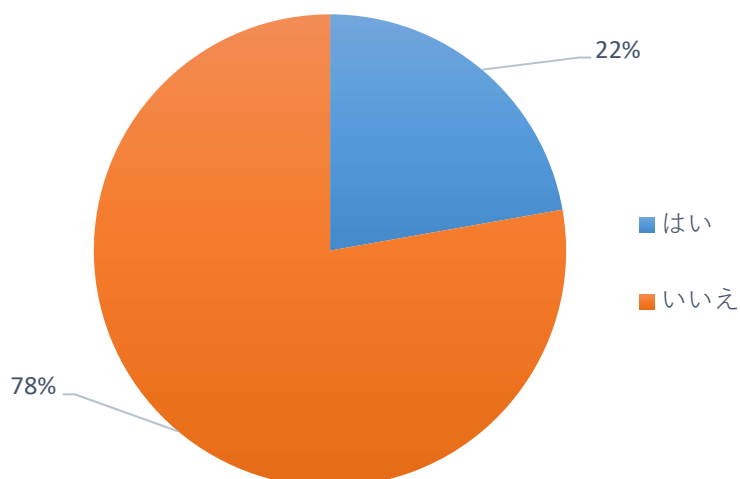
今回のインフルエンサーについては、9割が知らないという回答だったが、インフルエンサーによるホストタウンやローカル情報の発信については、ほぼ全員が肯定的な回答であった。

Q1 普段見ているSNSは何ですか。（複数回答可）



Q2 Kadekさんの投稿を見たことがありますか。

| 回答 | 件数 |
|-----|----|
| はい | 8 |
| いいえ | 28 |
| 合計 | 36 |



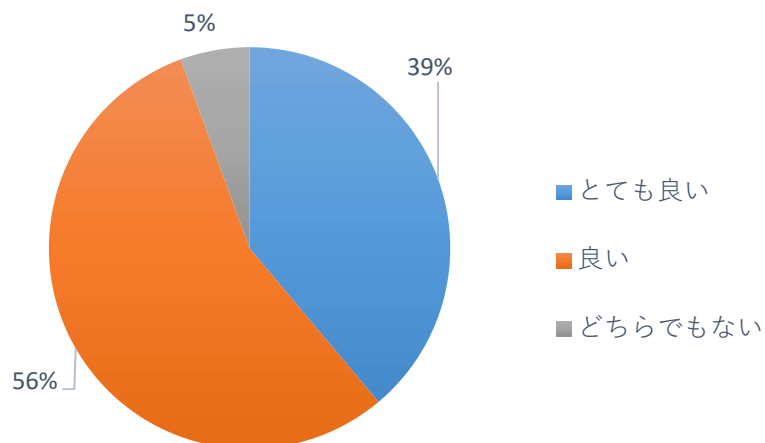
第2章. 3.交流会アンケート結果に関する報告

Q3 Kadekさんの投稿で好きな点は何ですか。

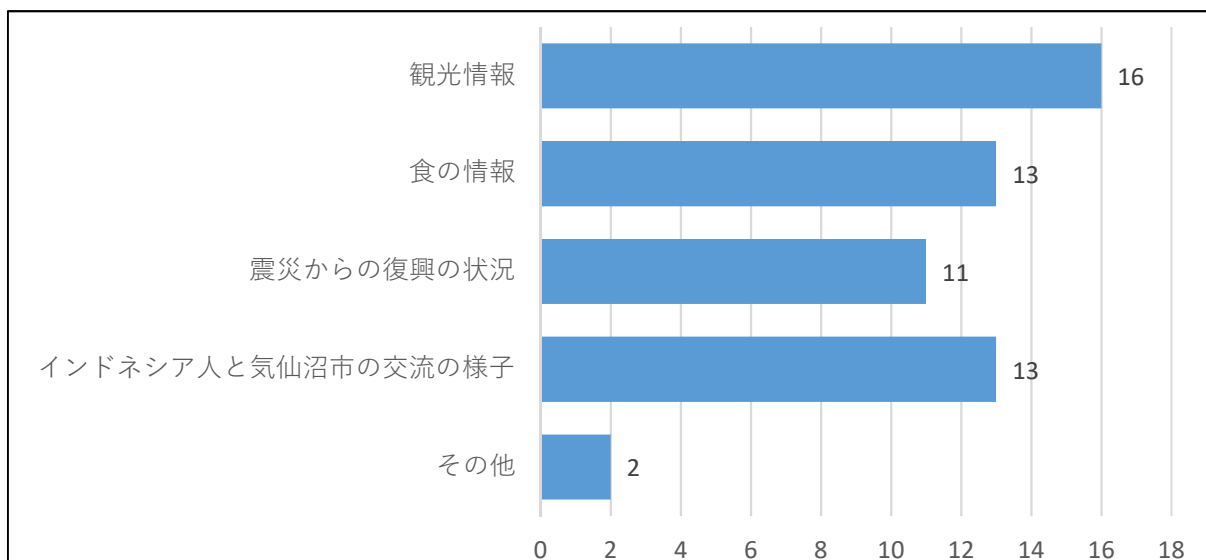
| 回 答 |
|-------------------------------|
| 写真です。 |
| 写真とビデオです。 |
| みんなのモチベーションを上げてくれるところ。 |
| Kadekさんが訪れた場所にとっても興味がある。 |
| 写真のフィルターと訪問場所が素晴らしくて興味がそそられる。 |
| 東京への観光 |

Q4 インフルエンサーにホストタウン取材してもらう取組をどう思いますか。

| 回答 | 件数 |
|---------|----|
| とても良い | 14 |
| 良い | 20 |
| どちらでもない | 2 |
| 合計 | 36 |



Q5 海外から来るインフルエンサーに、気仙沼のどういう内容を発信してもらいたいですか。



第2章. 3.交流会アンケート結果に関する報告

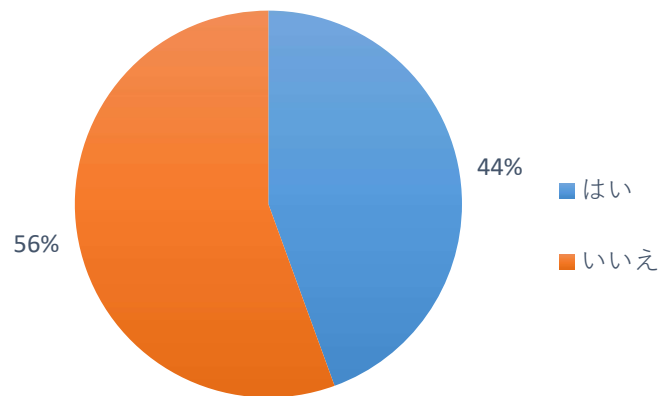
復興ありがとうホストタウン事業および2020年東京大会に対する意識について。

オリンピック・パラリンピックは競技会場、パブリックビューイング、テレビなどを通じて、観戦したいという意向が強く、関心が深い。

インドネシアからの招待したい選手（または競技）としては、いくつかの選手及び競技があがったものの、バドミントン選手を招待しての交流を望む声が大半を占めた。また、選手との交流について実際にしてみたい事としては、「一緒に撮影」「文化交流」「応援したい」などの声が上がった。

Q6 気仙沼市がインドネシアの復興ありがとうホストタウンであることを知っていましたか。

| 回答 | 件数 |
|-----|----|
| はい | 16 |
| いいえ | 20 |
| 合計 | 36 |



Q7 東京オリンピック・パラリンピック時に気仙沼市に来てもらいたいインドネシア人選手（または競技）はいますか。

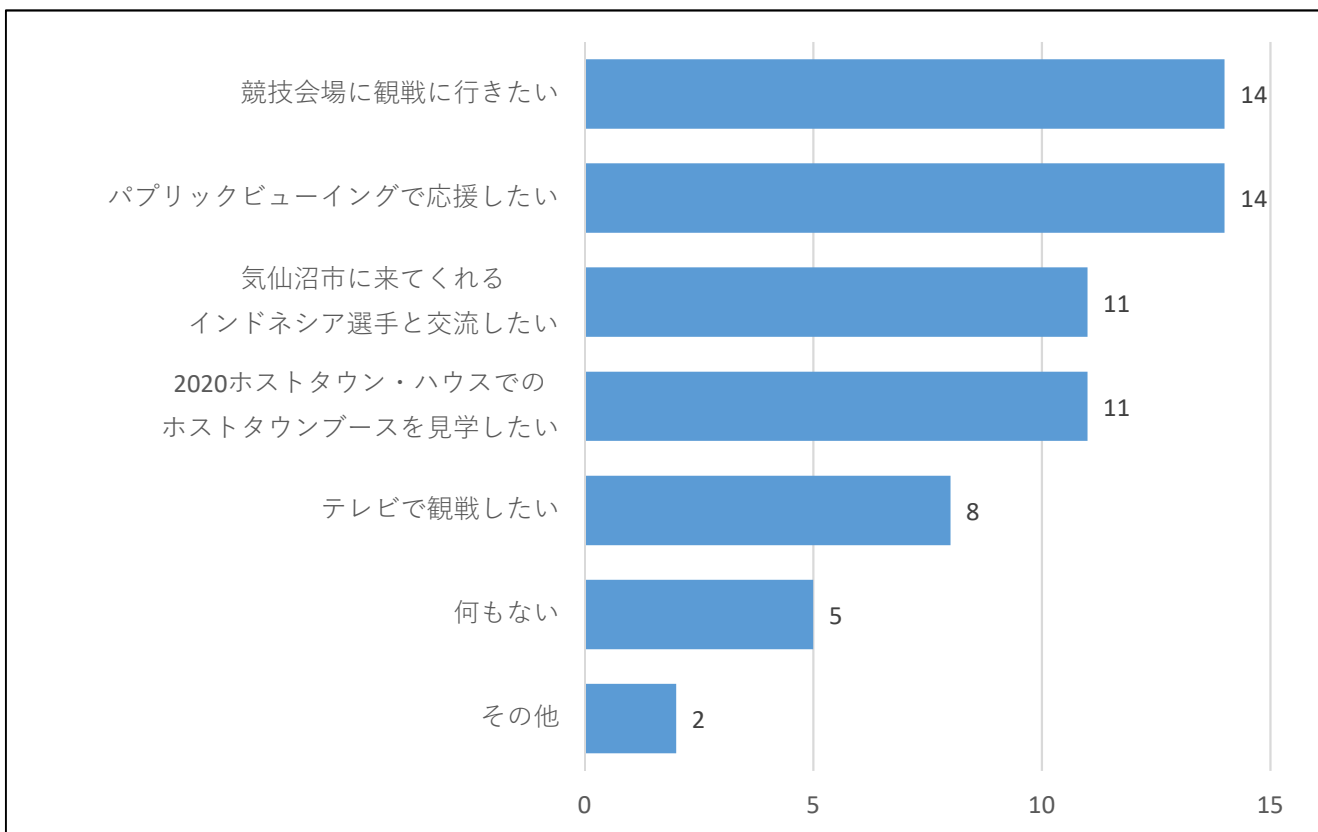
| 競技 | 回答数 | 具体的に挙げた選手名 |
|----------------------|-----|---|
| バドミントンの選手 | 5 | Tontowi Ahmad, Liliyana Natsir , Susi Susanti, Jonatan Cristie, Simon Santoso |
| バレーボール選手 | 2 | Rendy Febriant Tamamilang |
| サッカー選手 | 1 | Evan Dimas Darmono |
| フットサル (注：非オリパラ競技) | 1 | Bayu Saptaji |

第2章. 3.交流会アンケート結果に関する報告

Q8 東京オリンピック・パラリンピックでは何をしたいですか。（複数回答可）

| 主な回答 |
|---|
| 選手と一緒に写真を撮りたい。 |
| インドネシアから選手に来てもらい、応援（元気づけ）したい。 |
| 一緒にプレイしたい。 |
| 世界レベルのスポーツを実感してみたいです。100mとか。 |
| 若い人達を中心に交流の場をもってほしい。 |
| こちらに来て頑張っている子たち（インドネシア人実習生）と会わせてあげたいです。 |
| 東京オリンピックに参加したインドネシア人選手と日本人選手の友好が深まるようなこと。 |
| 文化の交流も。 |

Q9 東京オリンピック・パラリンピック時のインドネシア選手との交流で、やってみたいことは何ですか。



第2章. 3.交流会アンケート結果に関する報告

Q10 今後、「気仙沼市×インドネシア」のホストタウン事業でやってみたいことは何ですか。

回 答

インドネシア語の勉強会

意欲ある高校生をインドネシアに派遣する研修などはどうでしょうか。随行員は3人もいれば十分。現地交流があってこそその本当の交流人口、関係人口の構築になると思います。また、研修生無料、他は有料でのイベントで良いので機会は増えるといいなと思っています。

演芸、踊りのパーティー

スポーツ大会。ウォーキング大会。

今日のような食事を作って一緒に食事をしての交流。

ワークショップ

交流文化、主に生活習慣。食生活etc。

若い人たちの交流があっても良いと思う。とても礼儀正しい人たちです。日本の文化にもふれてもらいたいです。

一緒に何か企画を作りたい。

2国間の文化構築のために一緒に活動したい。

両国の関係発展のために一緒に活動したい。

気仙沼とインドネシアの関係が発展し、将来にわたって良い協力関係となってほしい。

インドネシア料理、特に東ジャワ料理についての交流。

インドネシアと気仙沼の文化の発展に関すること。

日本とインドネシアの伝統舞踊の交流プログラム。そして食の交流。他の日本料理についても学びたい。

日本に住むインドネシア人が日本についてもっと知れるよう、観光・料理・文化の面で、インドネシアと気仙沼の交流をもっとしたい。

気仙沼にインドネシア文化を紹介したい。

インドネシアと日本の文化紹介。

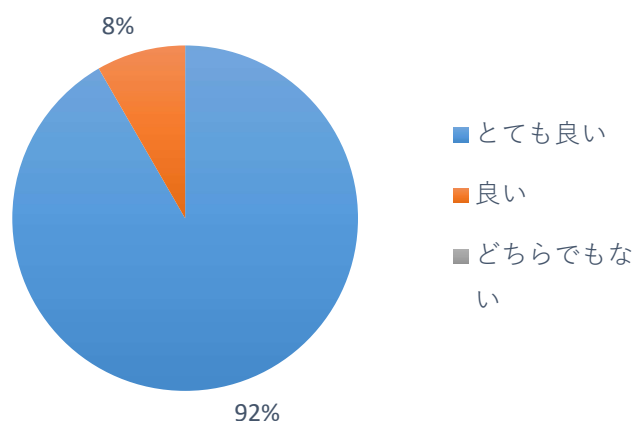
第2章. 3.交流会アンケート結果に関する報告

■ 食の交流会に参加しての感想

双方の食文化に対する新たな発見があり、今後より一層の交流を望む声が非常に多く、参加者の9割以上が参加して「とても良かった」と回答。「良かった」と答えた方を含めると、参加者全員が交流会に参加して良かったと答えおり、94%が今後の交流会への参加を希望しているので、今後も継続的に開催していくことで、より交流が深まると思われる。

Q11 食の交流会に参加してどう思いましたか。

| 回答 | 件数 |
|---------|----|
| とても良い | 33 |
| 良い | 3 |
| どちらでもない | 0 |
| 良くない | 0 |
| 合計 | 36 |



主な理由（日本人）

皆さんのお国のことを伺っていると、家族の話へとつながり、自身も楽しい時を過ごせた。
また、皆さんのちょっとした思いも受け止めてあげられたかと自己満足しながら、本日は楽しい時をすごせた。

参加してみても発見が色々ありました。例えば、ワカメ、酢の物、おにぎりはインドネシアの人達はあまり食べないんだということや、やはり若い人達との交流は国籍問わず楽しいです。

気軽にインドネシアの方々とインドネシア料理を作ることができたので良かったです。
料理が美味しくできました。

ミーゴレン等の作り方がわかって良かったのと、食の文化の違いを感じ取れました。インドネシア人の子とお話できて良かったです。とても誠実、几帳面だと思いました。

気仙沼では、イオン等の店舗や夏のお祭りでインドネシアの方を見かける機会は多くありますが、実際に話しを交わすようなコミュニケーションをとることがなかったので、交流会で彼らの素晴らしい人間性に触れあうことができ、とても良いと感じました。

異文化交流は大変素晴らしいと思います。

インドネシアの若い人達とお話でき&一緒にお料理を作ったりとても楽しかった。皆さん純朴でとってもいい人達。それでいてオシャレ。

インドネシアの方と一緒に料理をすることができて良かったです。

前にインドネシアで働いたのを思い出し、インドネシア人と話が出来てとても良かったです。

インドネシアの食が辛味が強いということがわかった。

外国人の方に対する壁がありましたが、日本語が話せるので楽しく交流ができました。

食べ物の量がちょっと多かった。

第2章. 3.交流会アンケート結果に関する報告

主な理由（インドネシア人）

一緒に料理を作れて嬉しかったです。いろいろな新しい料理を作ることができた。

一緒に日本人と料理を作ったので嬉しくて楽しくて面白いイベントです。

知らなかったことを知ることができた。

インドネシア料理を日本で知ってもらえる。

多くの気仙沼市民の人がインドネシア料理を知りたいと思っていることが嬉しかった。

親切的な日本人の皆さんと、たくさんのインドネシア料理と日本料理の作り方を学べた。

日本の皆さんが優しく、インドネシア料理を学ぼうとしてくれたから。

母の料理を思い出させてくれる。

インドネシアと日本で料理方法を教えあうことができ、互いの料理を知ることができ、友達を増やすこともできた。日本の人にとっては慣れていることですが、慣れていないインドネシア人にとって、コミュニケーションするには日本語ができることが重要。だけど、慣れていない、日本語もできないインドネシア人でさえ作ることができた。

参加したことで日本料理の作り方を学ぶことができ、とても楽しい経験がたくさんできるイベントだった。

焼き鳥とミーゴレンというインドネシア名物を日本人の皆さんに紹介できて嬉しかった。また、インドネシア人にとっても、おにぎりなどの日本の名物も美味しく食べることができた。

日本人とインドネシア人が一緒にの場に集まれた。とてもたくさんの人がこのイベントに参加していた。

日本人とのコミュニケーションの取り方を知ることができ、仲良くなれたから。

日本人から直接日本料理の作り方を学べた。インドネシア料理の作り方のシェアもできた。不満があるとすれば、材料やスパイスがインドネシアにとって完全でなかったこと。

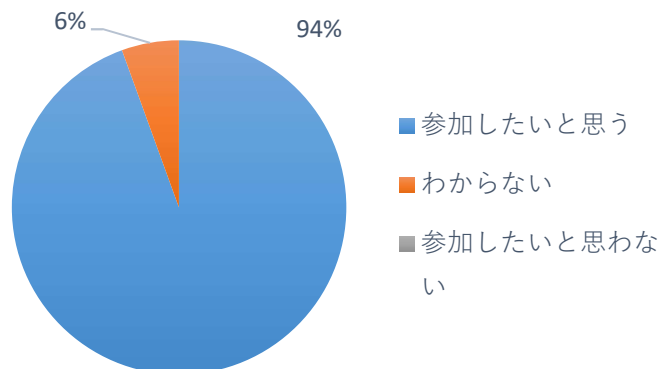
日本や気仙沼で有名なインドネシア料理を作ることで、インドネシア人と日本人の友好を深めることができた。

日本料理を知ることができ、日本人にもインドネシア料理を紹介できたから。

日本でこのようなイベントがあることに驚いたが、楽しかった。私の個人的な感想ですが、普段、料理はレシピも見ないですし、一人で作ります。そういった違いを見て、インドネシアと日本人の違いを知ることができました。ありがとうございました。

Q12 今後同様のホストタウン交流イベントがあった場合、参加したいですか

| 回答 | 件数 |
|------------|----|
| 参加したいと思う | 34 |
| わからない | 2 |
| 参加したいと思わない | 0 |
| 合計 | 36 |



第2章. 3.交流会アンケート結果に関する報告（総括）

①情報発信ツールについて

日本在住のインドネシア人の若者（実習生）を中心に、SNS活用状況が類推できた。彼らの多くはInstagram、Facebook、YouTubeなどのSNSを活用しており、これらを活用した情報発信は、日本人にとってもインドネシア人にとっても効果的であることがうかがえる。

②発信すべき手法・コンテンツについて

Kadekさんの投稿に関する自由記述からは、写真や映像による訪問先の魅力発信といった手法に、可能性が感じられることがわかった。コンテンツについては、観光や食の情報はもちろんのこと、復興ありがとうホストタウンの取組の主旨である「復興状況」や「交流の様子」についてもインフルエンサーによる発信の必要があることがわかった。

③ホストタウン・東京大会へのかかわりについて

参加者の中で、気仙沼市がインドネシアの復興ありがとうホストタウンであることを認知していたのは全体の半分弱だった。認知度は高くないため、今後も定期的かつ効果的に情報発信を積極的に行うことで、2020年東京大会本番迄のホストタウンの認知度を高めていく必要がある。

また2020年東京大会については、競技会場、パブリックビューイング、テレビなど、媒体を問わず観戦したいという意向が強く、関心が高い。

第2章. 4. 本事業の効果

SNSの反響

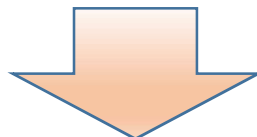
Instagramへの7回の投稿でアクセス数は約17万5000回。

action数は2万8000回以上。

毎回のアクセス数は総フォロワー数の1/3から1/5程度の閲覧数であることから、実際に興味のあるフォロワーだけが見ていると考えられるため、その訴求効果は高く、グローバルな情報発信に有効な手段であると言える。

食の交流会で実施したアンケートの結果

- ・気仙沼市在住のインドネシア人にとっても、Instagram等のSNSを活用した情報発信は効果的。
- ・写真や動画によるわかりやすい情報発信に需要あり。
- ・観光や食の情報に加え、復興状況や交流の様子についてもコンテンツとしての需要あり。
- ・今後のホストタウン交流への期待はあるが、東京大会本番に向けて、市民のホストタウン交流の認知度を高めていくことが課題。



回答者の多くはInstagram、Facebook、YouTubeなどのSNSを活用している。

インフルエンサーであるKadekさんの認知度は1割程度であったが、投稿の内容やインフルエンサーによるホストタウンに対する取材そのものについては95%が「良い」または「とても良い」と回答しており好意的であった。

また、今後の発信についても積極的であり、観光や食の情報はもちろんのこと、「復興状況」や「交流の様子」についても発信を要望する声が多かった。

第3章. 1.web版ホストタウンサミット – 1.基調講演

web版ホストタウンサミット

ホストタウンと相手国との交流を継続・発展させるために、ホストタウン、将来の交流を担う世代、民間企業、地域住民等の幅広いステークホルダーが連携・情報共有する場として、「ホストタウンサミット」を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止等のため、急遽中止になったため、一部のプログラムに登壇する予定であった皆様にご協力いただき、撮影した動画等を、web版ホストタウンサミットとしてweb上にて展開した。

基調講演

東京オリンピック・パラリンピック担当大臣

橋本 聖子



講演内容

- ホストタウンサミット中止とweb版ホストタウンサミット展開の経緯
- 今後のホストタウン活動の展開
- パラリンピックの成功と共生社会ホストタウンについて
- 復興ありがとうホストタウンへの思い
- ホストタウンでの食文化の発信（相手国とのコラボメニュー）について
- ホストタウンの皆様へメッセージ



元パラアイスホッケー日本代表選手

上原 大祐 氏



2006年トリノパラリンピック、2010年バンクーバーパラリンピック、2018年平昌パラリンピックに出場、バンクーバーでは銀メダルを獲得した。引退後NPO法人D-SHIP32を設立。NEC東京オリンピックパラリンピック推進本部にて、「楽しみながら障がい者を攻略する」をモットーに、日々、講演会やパラスポーツ体験会や大会を開催している。

「共生社会」は「共有社会」から

～「すいません」の言葉が減った時から「共生社会」が生まれています～

障害を持った人は日々「すいません」と周りに言いながら生活しています。この「すいません」が減ってくる事が共生社会が進んできているバロメーターになるのだと思います。共に生きる「共生社会」とはどのような事なのかを皆さんにお伝えいたします。また、スポーツの魅力についてもお話しいたします。

講演内容

- 岡山県真庭市での活動
- パラリンピアンへの受入れに戸惑う自治体へ
- すみませんが減る社会
- 海外で感じた「おもてなし」
- 共生社会ホストタウンの活動ポイント
- どうすれば日常化
- 多くの人たちに仲間になってもらうコツ
- これから共生社会ホストタウンを目指す方々へ



第3章. 1.web版ホストタウンサミット - 2.ホストタウンの高校生による発表

大会での選手の応援やホストタウンでの交流において、若い世代が活躍する事例も多く見られる。これらの事例を全国のホストタウンに展開することで、各ホストタウンの取組のレベルアップを図ることを目的に、3つの事例について発表を行った。

- ・玉川学園高等部（東京都町田市）
- ・徳島県立徳島商業高等学校（徳島県徳島市）
- ・山形県立酒田光陵高等学校（山形県酒田市）

ファシリテーター



合同会社アースボイスプロジェクト 代表社員

榎田 竜路 氏

メディアプロデューサー、音楽家。北京電影学院客員教授、（合）公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会経済・テクノロジー専門委員。

「自己肯定感を高め、価値開発力を育てる 認知開発®教育」を全国各地のホストタウン、小中学校で指導している。

発表者

玉川学園高等部（ホストタウン自治体：東京都町田市）

「2020年のオリンピックに向けて私たちができること」

発表者：竹野夏奈、辻村みちる、永岡舞琳、櫻井花蓮、豊澤芽実

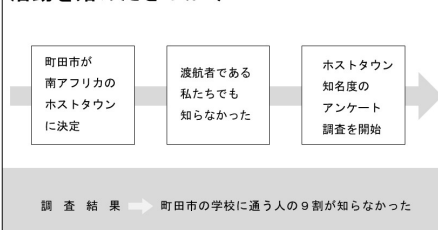


講演概要：南アフリカ渡航の経験をもとに、

町田市役所と協力して、2018年は市民向けワークショップ

企画・運営やコラボ商品の開発を行った。2019年には町田市からの講師派遣依頼を受け、南アフリカ・ナミビア両国のJICA事務所長と並んで登壇し、市民を対象に講演。また、多重露光という手法より、南アフリカと町田市内の風景を重ね撮りした写真は、市内各所にて写真展として展示されていることについて発表。

活動を始めたきっかけ



ワークショップ内容



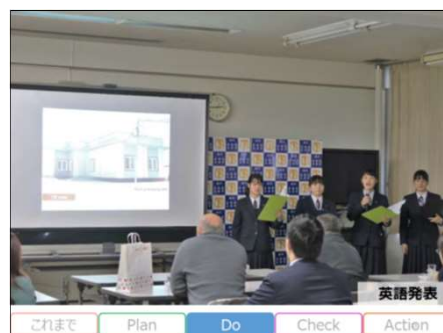
第2章. 1.web版ホストタウンサミット -2.ホストタウンの高校生による発表

徳島県立徳島商業高等学校（ホストタウン自治体：徳島県徳島市）

「徳商版 お接待プロジェクト ～食でおもてなしをしよう～」

発表者：藤井実音、兼子舞、森幸大

講演概要：現在、徳島県はドイツ、カンボジア、ネパール、ジョージアのホストタウンになっている。しかし、取組にかかわるまで、それぞれの国との距離も遠く文化も食も知らなかったことから、選手たちが元気に活躍できるよう、食のおもてなしをするところから取組を開始した。ホストタウン相手国の調査から交流、普及活動までを行っている「徳島ホストタウン特使」の活動を紹介。



山形県立酒田光陵高等学校（ホストタウン自治体：山形県酒田市）

「"Together as One" ニュージーランドと酒田をひとつに」

発表者：佐藤海月、兵藤弥生、佐藤風花

講演概要：ビジネス流通科は『ビジネススキルの学びを通して社会の課題を解決する』ことを目標に酒田市役所と連携してニュージーランドホストタウンのPR活動に取り組んでいる。この連携のきっかけとなったニュージーランド出身のベンジャミン・ボウルズ先生（元SEA）と取り組んだプロジェクトの経緯や実践について紹介。また、大会後も持続的なつながりを保つことが可能なプロジェクトを、東北公益文科大学との連携により考案。SDG s の目標達成となる「絆」にすることを目標に活動していることについて発表。



第3章. 1.web版ホストタウンサミット – 3. 駐日大使によるメッセージ

ホストタウンが相手国との交流活動を行う際に効果的な内容とするため、日本の自治体との関係性を深める大会参加国の立場で、駐日大使からホストタウン交流に期待する内容等について発表を行った。

パネリスト



駐日ニカラグア共和国大使

ロドリゴ・コロネル＝キンロッフ 氏

1975年、ニカラグア生まれ。米国ジョンズ・ホプキンス大学マーケティング修士課程修了。その後、マーケティングの専門家として、P&G社やヤム・ブランズ社など、米国で18年以上勤務。社会的責任への取り組みに力を注いでいる。2018年7月より現職。



駐日ブルガリア共和国大使

ボリスラフ・コストフ 氏

国際関係の修士号を取得。1981年にブルガリアの外務省に入省。在インドブルガリア大使館（ニューデリー）と在パキスタンブルガリア共和国大使館にて外交官員としてご活躍され、ブルガリアの外務省にて様々な役職にも就く。2008年から2014年まで在インドブルガリア大使館の特命全権大使を務め、同時にバングラデシュ、ネパール、スリランカの大使に兼任。2016年12月より現職。



駐日ヨルダンハシメット王国大使

リーナ・アンナーブ 氏

2016年6月から2018年11月まで観光・考古大臣を務める。2018年12月、ワシントン D.C. のジョージタウン大学外交政策学部、現代アラブ問題研究所（CCAS）の諮問委員会メンバーに選任された。閣僚ポスト以前には主要にホテルを所有する大手不動産企業ザラインベストメントホールディングスでジェネラルマネージャーを務めた。過去20年以上に渡りシティバンク、ジョンソン＆ジョンソン、国際通貨基金において様々な役職を歴任。キャリアの殆どを通して北米、ヨーロッパ、MENA地域の様々な国の民間セクターで勤務。2019年6月より現職。

発表要旨

| | | |
|-------|--|--|
| ニカラグア | | <ul style="list-style-type: none"> ● ホストタウンとの友情について アンダー18の野球チームが遭遇したトラブルとホストタウンの援助 ● 2020年を超えた交流 お互いに友情ができ、長期にわたる交流が期待される。 |
| ブルガリア | | <ul style="list-style-type: none"> ● ブルガリアのホストタウンとして6自治体が登録されている。 ● ホストタウンの基で築いてきた友好関係・協力関係の強い絆が、2020年東京オリンピックだけにとどまらず、文化交流、教育交流、貿易交流・経済交流、人と人との交流へと広範囲の交流に発展させていきたい。これらの交流はブルガリアと日本間の関係の基盤拡大と強化につながるので努力していきたい。 |
| ヨルダン | | <ul style="list-style-type: none"> ● 能代市との交流 多くの潜在的な可能性がある。能代市長のヨルダン訪問 ● ホストタウンと相手国の連携について ホストタウンをもつことは日本との良い関係をさらに豊かに |

第3章. 1.web版ホストタウンサミット -4. パワーリフティング応援デモンストレーション

2020年東京大会に出場する選手の能力を最大限に引き出すことも、ホストタウンにおいては交流活動と同様に重要である。

このため、競技の特性を踏まえた応援のデモンストレーションを行い、選手等のコメントから、ホストタウンの応援の力の重要性を理解してもらえるような動画を公開した。

パワーリフティングアスリート



撮影：西岡浩記

石原 正治 氏 生年月日：1972年6月28日（47歳） 出身：東京都

2000年 シドニーパラリンピック車いすバスケットボール日本代表

2018年 北九州2018ワールドパラパワーリフティングアジア・オセアニアオープン選手権大会
男子 97Kg級日本代表

2019年 世界選手権大会 ヌルスルタン2019世界パラパワーリフティング選手権大会
男子 88kg級日本代表

小、中、高とバスケットボール部に所属、17歳で事故により車椅子生活に。

以降、車いすバスケットに注力し、2000年シドニーパラリンピックでは、日本代表チームの一員として出場。2016年より、パラパワーリフティングへ競技転向。



撮影：西岡浩記

水江 加奈子 氏 生年月日：1987年12月19日（33歳） 出身：京都府

2018年 ワールドパラパワーリフティングアメリカオープン選手権大会

2019年 女子67kg級日本代表

第2回チャレンジカップ京都 女子61kg級 準優勝

2019年 READY STEADY TOKYO—パワーリフティング 女子61キロ級日本代表

昨年8月、リハビリ入院中に何かスポーツを始めたいと思い、日本代表 成毛選手の練習を見学。

パワーとテクニックで重量を競う競技に魅力を感じ、入院中にも関わらず往復3時間かけて練習に通う。4か月後の12月にコロンビアでのワールドパラパワーリフティングアメリカオープン選手権大会に参加。この海外デビュー戦で女子67kg級で51kgの記録を残す。また、未来のオリパラ選手を支援するJapan Rising Star Projectに2期生として合格、日本代表選手の合宿に参加された他、同プロジェクト終了と共に強化指定選手の仲間入りを果たす。

競技解説



撮影：西岡浩記

三浦 浩 氏 生年月日：1964年10月14日（55歳） 出身：東京都 所属：株式会社東京ビッグサイト

2012年 ロンドンパラリンピック出場

2016年 リオデジャネイロパラリンピック 男子49kg級5位入賞

2019年 全日本パラ・パワーリフティング選手権大会 49kg級

優勝 - 9連覇（2020年1月現在 49kg級 135kg 日本記録保持者）

2002年、仕事上の事故により脊髄損傷となる。2004年アテネパラリンピックの際、競技を知り、パラリンピック出場を目指し競技を始める。2大会連続パラリンピック出場など数々の成績を残す、日本が誇るベテランアスリート。東京パラリンピック出場を目指しトレーニング中。2028年ロスパラリンピックでも現役を目指している。

パラパワーリフティングとは

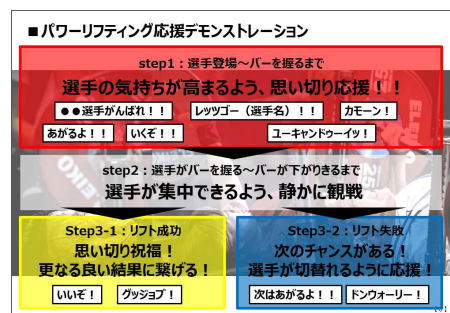
パラパワーリフティングは、台上に仰向けに横たわった状態からバーベルを押し上げるベンチプレス競技。

下肢に障がいのある選手が対象で、腕や肩、胸などの

上半身の筋力で勝負する。

試技は一人1回ずつ順番に行い、3回の試技で最も重いバーベルを挙上した選手が勝者。

障がいの内容や程度によるクラス分けはなく、試合は体重別に行われる。



第3章. 1.web版ホストタウンサミット – 5.自治体ポスターセッション

各ホストタウンでの今後の交流の活性化を目的として、全国のホストタウンから特徴ある取組や、そこに至る背景などをまとめたポスターデザインを募集し、ホストタウン関係者を中心に、参考事例として活用できるようウェブサイトに掲載した。

あわせて、ホストタウン取組を効果的に紹介できるデザインを以下の基準による投票で決定した。参加：79ホストタウン

* 優秀3作品を選んでいただくアンケートを実施

ポスターセッション投票概要

【投票の基準】

- ・市民を巻き込んだものであること
- ・創意工夫を持って取り組まれていること
- ・事業の継続性について考慮されていること
- ・取組がわかりやすくまとめられていること
- ・熱意が伝わってくる

ポスターセッション投票 上位自治体



ポスターセッション投票 上位5自治体

| 順位 | 自治体名 | コンセプト |
|----|------------|---|
| 1位 | 兵庫県 明石市 | インクルーシブな街 SDGs 未来安心都市あかしをめざして |
| 2位 | 岡山県 倉敷市 | さらに深め行く絆 心と心のふれあいを大切にしてきた姉妹都市交流を機に お互いの災害支援を通じて寄り添う心を育みました。 |
| 3位 | 青森県 三沢市 | Universal Town MISAWA |
| 4位 | 山形県 村山市 | 東京オリンピック・パラリンピック ブルガリアもホストタウンも「つながる」から「広がる」へ |
| 5位 | 北海道 根室市 | 日本とロシアを繋ぐ平和への取り組み 繋ぎ続けた日ロ交流の歴史！ スポーツ・食・自然で繋ぐ友好の絆！ |

第3章. 1.web版ホストタウンサミット – 6 .ホストタウンモデルルーム

2020年東京大会開催期間中に、設置予定のホストタウンハウスは、相手国大使館とホストタウンが協力して、世界中から来日する関係者や一般観戦者に対して、おもてなしを提供する交流スペースとして設置するもの。

各ホストタウンハウスから提供された情報を材料としてホストタウンのコンセプトイメージをウェブサイトに掲載することで、全てのホストタウンに取組イメージを持ってもらうこととした。

千葉県船橋市∞アメリカ合衆国



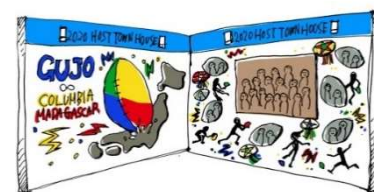
【展示概要】

- 交流活動の展示パネル
- 船橋市非公認ご当地キャラ「ふなっしー」の等身大パネル
- 交流風景の動画
- 船橋市の花であるひまわり

【特記事項】

2018年アメリカ男子体操チームの事前キャンプを受け入れ市民と選手たちによる交流プログラムなどの活動実績多数あり。「ホストタウンサミット2019」にて、交流活動において効果的にSNSを活用した情報発信を行ったことが評価され、「情報発信『いいね！』賞」の一つ“SNS賞”を受賞。

岐阜県郡上市∞マダガスカル共和国・コロンビア共和国



【展示概要】

- 相手国選手が地元に来て伝統の郡上踊りに参加した様子などの交流活動をパネル展示
- コロンビアおよびマダガスカルとラグビーを通じての交流をモチーフにしたデザインパネル

【特記事項】

市内に女子ラグビークラブを設立するなどラグビーの普及に力を入れている。コロンビア・ラグビーユース女子チームを招待し、様々交流活動を行う一方、マダガスカルとも事前合宿の受け入れについて合意。スポーツツーリズムのモデルケースとして、国内外にPRしていくブース。

第3章. 1.web版ホストタウンサミット – 6 .ホストタウンモデルルーム

静岡県焼津市∞モンゴル国



葛飾北斎浮世絵風景画
「駿河湾富嶽三十六景」
－第二十七景－
焼津市吉永海岸



【展示概要】

- 葛飾北斎の浮世絵をモチーフにしたデザインパネルにモンゴルとの交流風景を展示
- 鯉節削りの体験会を実施して、削り体験に加え、だし汁（DASHI）の試飲も実施してPR

【特記事項】

モンゴルレスリングおよびパラ陸上の事前合宿受入を決定。モンゴルの代表的な祭典「ナードム」を擬した「焼津ナードム」を開催するほか、モンゴル国の食文化及び民族舞踊・楽器の演奏に触れるイベントや小学生との交流等を通じて、モンゴルへの愛着を高め、市民全体での応援気運を高めている。

新潟県長岡市∞オーストラリア



【展示概要】

- 有名な長岡の花火大会をモチーフとして、長年の両国の交流の様子をパネル展示
- 両国の交流風景や花火の映像などを見ながら、長岡市の日本酒の試飲も実施

【特記事項】

2020年東京大会のみならず、2018パンパシフィック水泳選手権、2019FINA世界水泳選手権のオーストラリア競泳チームの事前合宿を受け入れる。市民の関心を高めるとともに、国際交流の促進を図る。長岡市と新潟県が協力して選手団の出迎えや見送りなどを行い、オール新潟で地域活性化を推進する。

第3章. 1.web版ホストタウンサミット

7.ホストタウン自治体の特産物を活用した相手国・地域コラボメニュー

ホストタウンが相手国・地域の関係者との交流の取り組みとして、食文化の交流も有効なケースが見られることから、ホストタウンで生産される食材を活用し、相手国・地域の食文化との融合を図ることを目的として開発したメニューをウェブサイトに掲載し、各ホストタウンの参考事例とした。

コラボメニュー

北海道士別市
∞
台湾



士別市産サフォークラム肉と
GAPたまねぎのゼリー寄せ

岩手県釜石市
∞
オーストラリア連邦



オーシャントラウトのコンフィ
三陸わかめとポン酢ジュレ

岩手県宮古市
∞
ナミビア共和国



重茂早採りわかめ春一番と
ジャガイモのミルフィーユ

宮城県名取市
∞
カナダ



名取市で採れた北限しらすと
仙台せりのセビーチェ

宮城県岩沼市
∞
南アフリカ共和国



ハラルビーフカレーの米粉パン

宮城県岩沼市
∞
南アフリカ共和国



ハラル鶏南蛮カレー

宮城県気仙沼市
∞
インドネシア共和国



GAPトマトと和牛のレンダン煮込み

山形県長井市
∞
タンザニア連合共和国



蕎麦ちよこで包んだチョコバナナ
マカロン仕立て

埼玉県三芳町
∞
オランダ王国



姫あやかの大学いもと
モンブランクリーム

第3章. 1.web版ホストタウンサミット

7.ホストタウン自治体の特産物を活用した相手国・地域コラボメニュー

奈良県田原本町
∞
グアテマラ共和国



古都華イチゴのシュークリーム
コーヒー風味

徳島県
∞
ジョージア



GAP神山椎茸のロースト

徳島県
∞
ジョージア



阿波尾鶏のバロティース

徳島県
∞
カンボジア王国



GAP星のしずくトマトのガスパチョ

徳島県
∞
カンボジア王国



天然鰻とGAP蓮根
GAPのいのち育むたんぼ米の押し寿司

徳島県
∞
ネパール連邦民主共和国



なると金時のチップと滑らかなペースト

熊本県
∞
インドネシア共和国



完熟トマトとゆうべにのブラッディメアリー

熊本県
∞
インドネシア共和国



熊本県産完熟ミニトマトのアクアパッツァ

静岡県御殿場市
∞
台湾

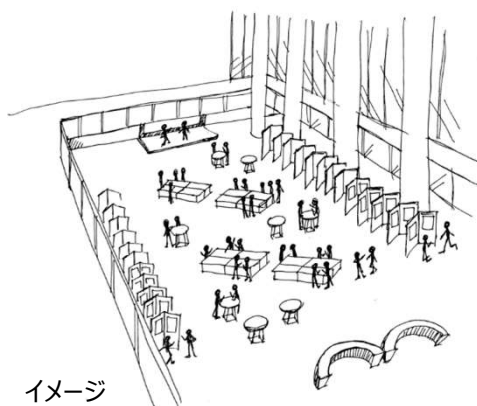


ごてんばこめこカレーと茶葉のドライカレー

岐阜県郡上市
∞
コロンビア共和国／マダガスカル共和国



コーヒー香る天然鮎の炊き込みおむすび
天然鮎とキャッサバリーフのおむすび



イメージ

第3章. 1.web版ホストタウンサミット – 8.音楽パフォーマンス

ホストタウンでの相手国・地域との交流については多岐にわたるが、参加者が言葉を介さずに楽しく交流できるものとして、音楽交流があげられる。

ホストタウンにある伝統的な音楽文化と相手国の音楽文化の融合により新たな文化交流が生まれることから、その一例として、異なる文化のコラボレーションをウェブサイトに掲載した。



演出

徳田健一郎氏

音楽スタジオ「SOUNDHILL」代表
TTMジャンベアカデミー ディレクター



鹿児島郡三島村出身。1994年8月ジャンベの神様と呼ばれるママディ・ケイタ氏に出会い、この世界へ飛び込む。アフリカでの修業を経てアメリカやヨーロッパに渡り演奏家としての経験を積み、アジアでは初めて、ママディ氏の創設したジャンベのための学校 TamTam Mndingue Djembe Academy(タムタムマンディングジャンベアカデミー)の講師の資格を2003年ベルギーにて取得。その後、鹿児島郡三島村にあるジャンベスクールの校長に就任。自身の運営する音楽スタジオでは、ジャンベだけでなく、クラシックを含む幅広い音楽を取り入れ、次世代の育成指導に力を入れている。現在ジャンベ奏者、パーカッショニストとして国内外で活動を続けている。

スティールパン



渡辺明応

12歳でギターを始め、19歳の時にCDデビュー。社会人経験中にスティールパンと出会い2009年にWAIWAI STEEL BANDへ加入。2017年にトリニダード・トバゴへ渡航、現地で日本人男性として初となる、120人規模のスティールパンバンドの最前列で好演を果たす。



宮本まい

4歳よりピアノ、10歳よりマリンバを始める。2008年、メジャーデビュー。2009年、洗足学園音楽大学打楽器科を卒業。スティールパン奏者として、さまざまなアーティストのライブサポートやレコーディングに参加。日本フィルハーモニー交響楽団との共演などにも出演。

ジャンベ



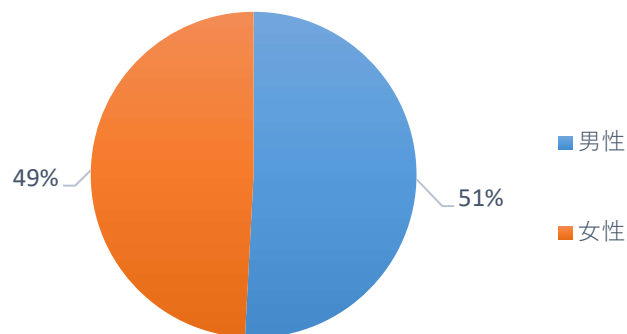
NPO法人一期JAM

NPO法人一期JAM(いちごじゃむ) アフリカン音楽を通してよりよい社会を作る事を目標に2013年12月に設立。特に西アフリカ伝統打楽器ジャンベの持つ特徴の一つであるコミュニケーション能力を最大限に生かしながら、年代、国籍、性別を超えた「人と人との繋がり」の大切さを伝える活動をしている。

第3章. 2.アンケート集計

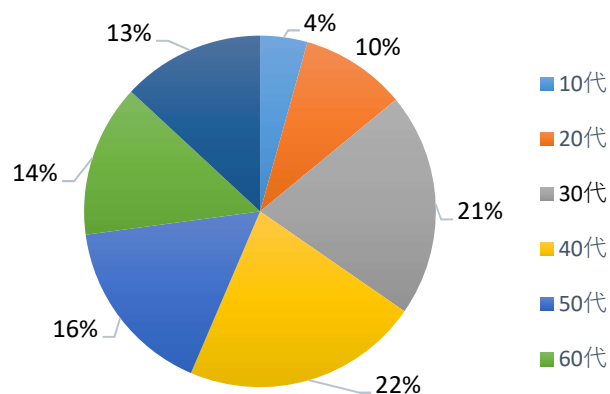
回答者男女比

| 性別 | 件数 |
|----|-----|
| 男性 | 210 |
| 女性 | 203 |
| 合計 | 413 |



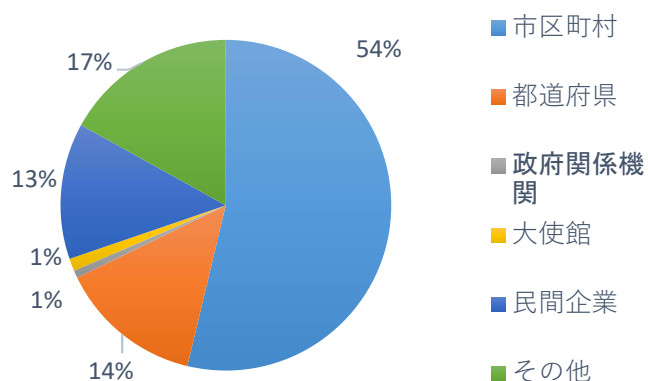
回答者年齢

| 年代 | 件数 |
|-------|-----|
| 10代 | 18 |
| 20代 | 40 |
| 30代 | 85 |
| 40代 | 90 |
| 50代 | 68 |
| 60代 | 58 |
| 70代以上 | 54 |
| 合計 | 413 |



Q1 回答者の「所属」について、該当するものにチェックをしてください（1つだけ）

| 所属 | 件数 |
|--------|-----|
| 市区町村 | 222 |
| 都道府県 | 58 |
| 政府関係機関 | 3 |
| 大使館 | 5 |
| 民間企業 | 55 |
| その他 | 70 |
| 合計 | 413 |



Q2 ポスターセッションに参加した79自治体のポスターの中で良いと感じた3つの番号を記入ください。
※ポスターセッション（P.00）に上位10位までを記載しております。

第3章. 2.アンケート集計

web版ホストタウンサミットで参考になった、一番印象に残ったプログラム

【ポスターセッション】

ホストタウン自治体としては、ほかの自治体の取組について比較したいと考える傾向が強いため、ビジュアル的にわかりやすいポスターセッションへの興味・関心が高かった。

【基調講演：橋本大臣】

ホストタウンを発信する中心的役割を担う大臣の言葉に対して共調するとともに、改めてホストタウンの目的を再認識できた。

【基調講演：上原氏】

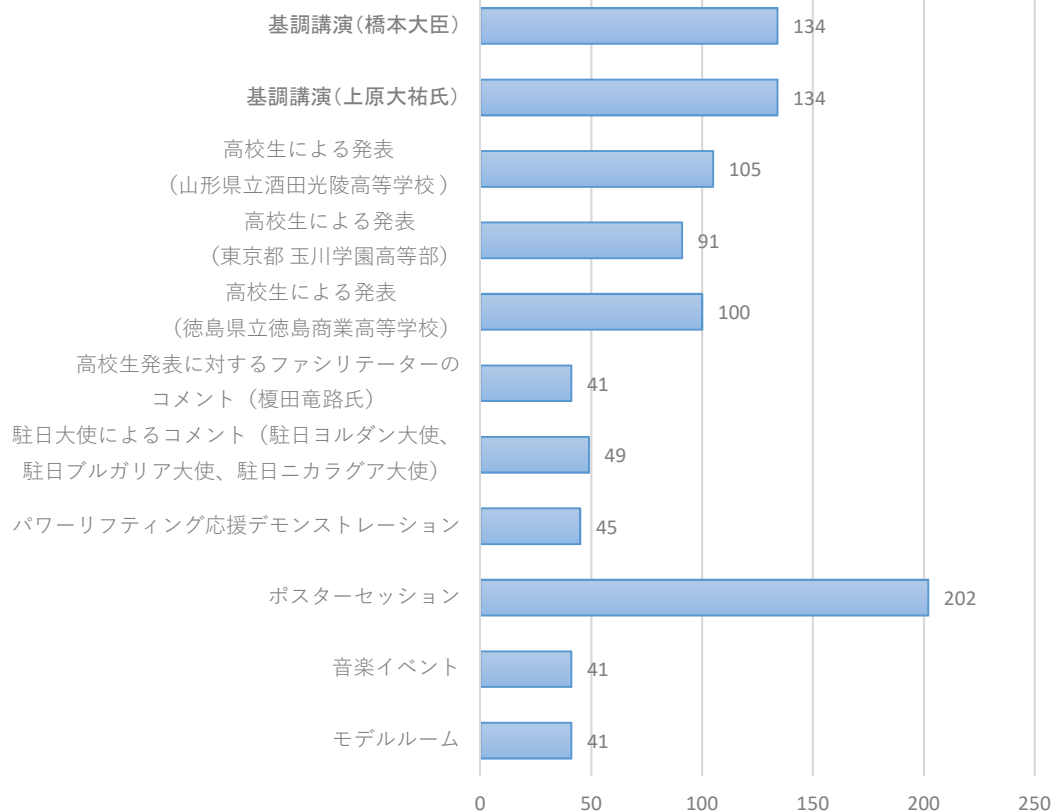
バリアフリーを従来のハード面だけで捉えるのではなく、心のバリアフリーを強調した、共生ホストタウンの話が分かりやすく共感できる部分が多く、広く賛同を得た。

【高校生による発表】

次世代層の活躍に対して、期待値も含めた票が非常に高かった。

Q3

以下のプログラムで参考になったものにチェックをしてください（複数回答可）



第3章. 2.アンケート集計

Q4 上記プログラムの中で一番印象に残ったものの感想をお聞かせください。

一番印象に残ったもの

基調講演

音楽イベント

継続的な交流に係る言語不要の交流のあり方を学べた

ポスターセッションによる各市区町村の取り組み

在日大使によるコメントは非常に心に刺さる内容であった。他国の大使にも本動画を視聴して頂きたい。

各自治体の取組がよくわかりました。

上原氏の基調講演。海外を旅行すると日本のバリアフリーの遅れに気づくことが多かったが、2020東京大会をきっかけに共生社会に向けて前進することに大きな意義を感じる。また、事前に決められたことをこなしていく傾向にある自治体の業務の進め方は、相手に左右されるホストタウン事業では通用しないこともあり、何事に対しても柔軟に対応が取れる体制作りは大きな課題であると感じた。

ポスターセッション

昨年の物よりもはるかにレベルアップしている市町村が多いということ。各地の意気込みが伝わってきます。

上原大祐氏の講演は、健常者、障害を持つ人の心理的な垣根を指摘し、日常の健常者目線の生活に示唆を与えるものであり、今回、真庭市での講演以後、議会、職員など多くの反響が聞こえています。

ポスターセッションが、他自治体の取り組みがわかりとても参考になった。

ブルガリア大使コメント

上原大祐氏

ポスターセッション

上原大祐さんの講演はいつ聞いても、明るく前向きな内容で、流暢な話方で、聞いているこちらも元気になります。目からウロコな話もあり、とても参考になります。

酒田光陵高校の取り組み。ニュージーランドのホストタウンに関する取り組みを通じ、若い力で地域の様々な事業者との交流を図り、地域も感化され活性化につながっている。また、ニュージーランドとの交流を通じ、当該国のみならず、クルーズ船の受け入れをはじめ、多くの外国人との交流を積極的に行い、国際的な広い視野を持ち合わせる契機となっている。ぜひ今後も、自由で柔軟な発想で、広い視点で地域活力の原動力になっていただきたい。

他自治体の取り組みが参考になった

音楽イベントでジャンベとスティールパンのセッションがあったが、本町がホストタウンとなっているトリニダード・トバゴ共和国はスティールパン発祥の地であり、ジャンベは同じ鹿児島県三島村で盛んに演奏されている楽器であることから、同じ鹿児島県内で連携してできることがあるのではないかと可能性を感じた。

他の自治体が、どのような交流を行っているかがわかり易いため、ポスターセッションが一番印象に残りました。

ポスターセッションは、各自治体のホストタウン事業への取り組みがよくまとまっていて見やすかった。

基調講演の上原さんの内容は、非常に勉強になりました。

『自分事に』まさに共生社会に必要な言葉です。

障がいを抱えた人が『すみません』を言わない社会にしていきたいです。

正に自分の娘が障がいを抱えていて、口癖は「すみません」。

今後共生社会をつくろうとしている人にぜひ知ってほしい内容ばかりでしたので、ありがたかったです。

第3章. 2.アンケート集計

一番印象に残ったもの

高校生をはじめ、世界各国のそれぞれの方々が、チャレンジ、そして、交流に取り組んでいることに感銘した。

ポスターセッション

高校生の積極的な参加が一番印象的

酒田光陵高校が、相手国を知る、おもてなしするだけでなく地域の課題解決にも同時に取り組んでいるところが素晴らしい。

上原氏の講演は、現在様々な市町村で行われている施策に対しての意見もあり刺激になりました。具体的な施策の事例がもっと聞ければなと思いました。

[ポスターセッション]

多くの自治体の取り組みを知ることができた

高校生による発表はどの自治体も面白かった。地元高校生の主体的な活動になっていることは、地域全体でオリパラを盛り上げているということが実感できた。

高校生がホストタウンの知名度を上げる取組に参画することが市民認知へ大きく繋がると感じます。

ポスターセッション。各地の取組がわかりやすく紹介されているためわかりやすかった。

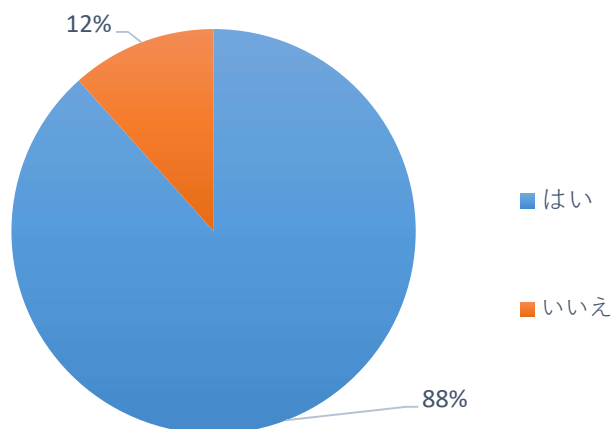
高校発表。3校ともに、ホストタウンに関する取り組みが素晴らしい。

他のホストタウンの取組や考え方・広報の仕方など参考になります。

高校生の発表に対するファシリテーターの方のコメントの中の「日本の大人社会は他国とくらべ、「失敗は成功の元」として受け入れられる土壌が貧弱」という言葉が印象的でした。そうした風土のなかで高校生たちが自由な発想で行動する姿が、これからの日本に必要なものではないかと感じました。

Q5 ホストタウンサミットが今後もし開催されたら、参加されたいですか

| 回答 | 件数 |
|-----|-----|
| はい | 365 |
| いいえ | 48 |
| 合計 | 413 |



第3章. 2.アンケート集計

ホストタウンハウスに期待すること

より活発な文化・経済・人的交流、ホストタウンハウスからの内外への情報発信、日本国内にとどまらない多数の国や地域からの集客、地方活性化につながるPR効果および、その他の自治体への波及効果などがあがっているが、集約すると地域活性化の原動力としての期待が大きいと言える。

Q6

大会時に設置予定の「2020ホストタウン・ハウス」にどのような期待をしますか。

「2020ホストタウン・ハウス」にどのような期待をするか

観光振興

物産展とか、地域の紹介ブースというのはつまらないので、ホストタウン独自のイベント（特別講演会、学習ワークショップ、ブラインドサッカー体験）といったイベントを、自治体協賛でやると良いと思います。

関係者だけではなく、日本全国・世界各国からの多数の来場者を期待したい。

多くの来場者にホストタウンPR、町の観光PRができればいいと思います

オリ・パラ開催期間中における相手国との貴重な交流の場として。

- ・十分なスペース確保
- ・ステージイベント等の実施（参加選手等の交流含む）
- ・HPやSNSなどによるPR

自治体の多くが参加する体制

たとえ規模が小さくなくても、伝わりやすい中身になるよう、各自治体に対しご支援いただきたい（展示の工夫など）

地方への波及効果

ビジネス色が出るようなものではなく、純粋に出展自治体等のPRにつながることを期待する

ホストタウン相手国との交流・連携を推進し、大会後のホストタウン交流事業に係る取組を充実・円滑なものとするような仕掛けづくりを期待している。

話題性と賑わい

選手との交流ができること。国の特徴、文化がよく伝わってくるもの。

少しでも、ロシアとの距離が深まって、友好活動の期待

お互いの都市の発展を

根室市に、期待しています

頑張って

北方四島返還

第3章. 2.アンケート集計

「2020ホストタウン・ハウス」にどのような期待をするか

当該ホストタウンのみならず、展示を契機に、広域な交流・発信を念頭においていただき、展示していないホストタウン等への更なる交流の足掛かりとなるような展開を期待。

確実な誘客

たくさんの集客と出展費に見合った自治体PR。

世界の人々の交流

相手国との交流の場所にしたい

根室市が、はじめての、受け入れだから
期待しています
大成功を

ホストタウン市町村用ブース

沢山の人が集い楽しむ場になる事を期待します。

ホストタウン・ハウスでのPRが今後につながるようなしかけ

自治体の魅力を生かした特色ある展示に期待したい

本県では設置の予定はないが、各自治体の効果的なホストタウンの取り組み紹介の場となることを期待する。

誰もが気軽に訪問でき、驚きを感じるハウスにしていだきたい。

各国の取り組みなどを見て、聞いて、楽しむことができると良い。

気軽に立ち寄れ、交流できるスペース

ホストタウンの多くの自治体・地方が幅広く国内外に魅力を発信でき、オリンピック後のインバウンド交人口拡大につながるよう期待します。

世界各国の方々も自然にあつまれる空間にして欲しい。

ホストタウン自治体の持つ観光資源等の情報が世界に発信されること。

大会に向けて来日された方々に、日本の特色のある文化を知ってもらいたい。

第3章. 2.アンケート集計

今後、推進していきたい取組及びその課題について

大会本番に向けて、受け入れ環境の整備、応援体制の確立、ホストタウンハウスそのものの認知度アップ、ホストタウン相手国との交流全般などが課題としてあげられた。

また、今後の取組として、オリパラ開催後の継続的交流の実施、学生や次世代層と連携した体制の確立にへ取り組んでいく意向が強かった。

Q7

web版ホストタウンサミットを閲覧し、ホストタウン活動の推進にあたって、「今後、貴団体内で推進していきたい取組」や「取組にあたっての課題」など感じたことを差し支えない範囲でお答えください。

今後、推進していきたい取組・取組にあたっての課題

〈課題〉予算・事務局人員の確保（支出の制限）

ホストタウン活動の国民レベルでの周知

学生との協働を考えたい。

他自治体の取組みをみて、スポーツ担当課だけでなく国際交流や観光など様々な部署での取り組みがあり、当市の課題だと感じました。

学生や民間等を巻き込んだ取組の必要性を感じた

事前合宿に来るホストタウン登録国選手との交流を中心に取り組みたい。

この取り組みに参加し、意見を聞きたかった自治体同士で連携し情報の共有が図ることができたらと思いました。

市民へのPR。ホストタウンを知ってもらうための取組を積極的に行っていききたい。そして地域で応援できる体制を少しでも整えていききたい、

相手国の選手との交流計画について推進していきたい

現状として、受け入れ国が決定できない状況にあることから、受け入れ国の選定及び打診を続けるとともに、web版ホストタウンサミットを参考に地域の情報発信を行っていききたい。

ホストタウン相手国との交流全般。本市は今のところ相手国との交流ができていないため。

第3章. 2.アンケート集計

Q7

web版ホストタウンサミットを閲覧し、ホストタウン活動の推進にあたって、「今後、貴団体内で推進していきたい取組」や「取組にあたっての課題」など感じたことを差し支えない範囲でお答えください。

今後、推進していきたい取組・取組にあたっての課題

オリパラ開催後の運営

SNSを使用した情報発信を積極的に行っていきたい

費用

交流内容は参考になった

市民との交流やレガシー作りに取り組みたい。

ホストタウン交流はおもてなしの延長のような捉え方がどうしても強く、行政側が求める交流を望まないNFもある。相手国NFにどう理解してもらえるかが課題である。

子どもたちに国際感覚を身につけた世界で活躍できる人材になってもらうよう、ホストタウン相手国との留学やホームステイを行う。

申込の時にも記載しましたが、ホストタウンにはローカルコンシェルジェが必要でその取り組みができますが、時間との闘いになりますね。

自治体支援、民間企業巻き込んだ活動

ポスターのデザインなど、大変参考になりました。今後のホストタウン事業の参考とさせていただきます。

大会本番に向けた応援体制の検討。

オリンピック チームとの人的交流
市民の認知度の向上

地方での盛り上がりはどう作っていくか。
コロナの影響が心配です。

地域でのインバウンドや異文化交流を考えた場合、酒田光陵高校はじめ、高校生や学生との連携した取り組みは重要だと感じた。ぜひ機会をつくり取り組んでいきたい。

本町は、まだパラアスリートの合宿受入に慣れておらず、今後、受入環境の整備が必要と感じているが、その点において上原氏の基調講演は大変参考になった。今後、講演で伺った点を踏まえ、積極的な誘致と環境の整備に努めていきたい。

2020年以後の交流について

大会後もホストタウン交流を続けていくには、相手国との民間同士の交流を軸に進めていく必要があると思うが、今まで行政主体で事業を行っていたため民間に根付くのが難しい。

ホストタウン事業がオリンピック・パラリンピック大会を到達点としていると考えている人が多いので、大会後に向けた意識を高めなければと感じています。
持続的なつながりをどんなモチベーションで動いていくかをもう少し大きくPRしてもいいのではないかと思います。

アスリートと住民の交流事業 等

第3章. 2.アンケート集計

Q8

その他、ご意見・ご要望などございましたら、ご記入ください。

意見・要望

コロナウイルス問題が落ち着いてオリンピックパラリンピックが開催できることを願っています。

ポスターセッション印刷されたものがあれば、参加自治体にいただき、PRに利用したい。

ホストタウンハウス出店に係る費用は正直安いものではないと感じる。また、利用できる企業も特定事業者となり費用対効果を考慮すると出展は検討せざるを得ない状況である。

根室市のホストタウン、ロシアとの距離が少しでも、近くなって、友好活動出来ように応援しています。

ホストタウンそのものを知らない方がたくさんいると思います。オリンピック・パラリンピックを人と人とのつながりのイベントとしていくには、とても重要な事業だと関りながら感じています。子どもたちの家庭の経済状況にとらわれることなく公平に国際的感覚を身に付けることができる絶好の機会だと思います。

本大会後のホストタウン事業のあるべき姿を、日本で創造してみたいかでしょうか。

コロナからはやく抜けだしオリンピック実現したい。

その発表の場をまた2021年に実施していただければありがたいです。

東京2020オリンピック・パラリンピックにおいて特にパラリンピックへの国民の注目度が高くなっているように感じます。共生社会への気付きを多くの場面で感じており、大会本部の奮闘に敬意を表す。

中止は残念だが、ポスターデータ等参考になった。ポスターデータの画像サイズを大きくしてほしい（文字が見えない自治体もあった）。

第3章. 3.調査結果に関する分析および報告

①ホストタウンへの波及効果

web版ホストタウンサミットで注目を集めたのが「ポスターセッション」や「基調講演」であった。「ポスターセッション」の印象が強かったとした者が多かったのは、各ホストタウン自治体が、他のホストタウンの取組を参考にしたいという意識が強いことの現れであると考えられる。また、昨年のポスターよりも内容が向上しているとのコメントもあり、ホストタウンの取組がさらに充実してきていることが示された。「基調講演」に関しては、橋本大臣の講演に対しては、本来的なホストタウンの目的や役割などについて大臣の言葉で語られることに意義があったものと考えられる。一方、上原大祐氏の講演に関しては、共生社会ホストタウンに取り組む際に参考になる示唆に富む話が盛り込まれており、多くの人が感銘を受けたということであった。

今回、新型コロナウイルス感染症の影響で、一堂に会してのホストタウンサミットは開催できなかったが、その代替策としてのweb版ホストタウンサミットへ、登壇予定であった方々に動画などで講演等していただくことによって、参加予定であった方々に予定していたプログラムの内容をご覧いただくことができた。これにより、様々な示唆を得ていただき、「2020年東京大会」開催以降も含め、ホストタウンとして、相手国との交流のさらなる活性化、国内外に向けて情報発信をする場として本サイトが活用できることを認識いただくことができた。

②相手国や一般の方々への波及効果

今回のweb版ホストタウンサミットは、駐日大使の講演として、ニカラグア、ブルガリア、ヨルダンの大使からのコメントをいただいた。相手国側からホストタウンを高く評価するメッセージをいただいたことは、ホストタウン自治体にとっては大きな喜びであり、海外に向けてホストタウンの意義を発信する良い機会となった。また、ホストタウンに関わる各団体のホームページやホストタウンアピール実行委員会の各種SNS等で発信されている。

一方でインフルエンサー招聘による、ホストタウンからの情報発信が、日本と相手国双方に同時にPRでき、訴求効果も高いことが分かった。今後こうした取組が各ホストタウンでも取り組まれることを期待したい。

③レガシーの創生

今回のweb版ホストタウンサミットのプログラムのひとつである「高校生による発表」では

- ・玉川学園高等部（東京都町田市）
- ・徳島県立徳島商業高等学校（徳島県徳島市）
- ・山形県立酒田光陵高等学校（山形県酒田市）

第3章. 3.調査結果に関する分析および報告

の3校の取組が動画によって披露された。高校生たちが自らの問題意識を持ってホストタウン活動に取り組んでいることに多くの方から高く評価され。アンケート結果にもそのことが現れるコメントが見られた。

自治体としてのレガシーの創出として、次世代の担い手の育成が重要であり、他のホストタウンでもこうした若い世代が積極的に参加する機会創出に繋がることが期待される。

④ホストタウン・ハウスに対する期待および今後の課題

2020東京大会で開催予定であるホストタウン・ハウスで実施することを想定し、「音楽パフォーマンス」「パワーリフティング応援デモンストレーション」「ホストタウン・ハウスモデルルーム」の取組を実施した。本来であれば、ホストタウンサミットを開催し、実際に参加し、体感していただく必要があるプログラムではあったが、web版ホストタウンサミットで再現を試みた。バーチャルながらイメージを持っていただけたことと考える。

ホストタウン・ハウスには多数の来場者があり、異文化交流が活発に行われること、またホストタウンの情報発信の場としても期待と注目が寄せられている。

2020東京大会を越えて人的・文化的・経済的交流の継続が図られることが重要である。

web版ホストタウンサミットの内容をヒントにいただき、各自治体では、ホストタウン交流を通じて地方創生、地域活性化につなげる取組をさらに発展していただきたい。

また、今回のweb版ホストタウンサミットの内容を、ホストタウン活動上の参考にしていただき、国際感覚を持った相手国との交流、民間企業を巻き込んだ活動、より一層の周知、PR活動などに生かしていただきたい。

web上のバーチャル体験であるにも関わらず「今後開催されるとしたら参加したいか」という設問に対し、アンケート回答者の88%が「希望している」との回答があった。

ホストタウン自治体を始めとした関係者が一堂に会し、全国のホストタウンが交流する機会を持つことの重要性を改めて認識することができた。新型コロナウイルス感染症の拡大が収束した暁には、また、ホストタウンサミットを開催することが期待される。

最後に、ホストタウンサミット参加予定であった方々に、中止のご連絡が直前となってしまったことをおわび申し上げます。

また、急なお願いにもかかわらず、快く動画撮影等にご協力いただきましたweb版ホストタウンサミットの登壇者等の皆様に感謝申し上げます。